

折に触れ 四字熟語

NO. 207 『騎虎之勢』 きこのいきおい

< 意味 > いったん始めたら困難に遭っても投げ出すわけにはいかず、やり続けるほかないことのたとえ。事の成り行きとして、途中でやめにくいことのたとえ。乗りかかった舟で、もう後に引けないことをいう。いったん虎の背に乗ってしまえば、その勢いが激しく降りられない、また、途中で降りれば虎に食われてしまうので、もう降りられないという意から。

< 出典 > 『太平御覧』^{たいへいぎょらん} 四六二に引く『晋中興書』^{しんちゅうこうしょ}
「今の事勢、義として踵^{くびす}を旋^{めぐ}らす無く、騎虎の勢い、下りるを得^うべけんや」（今の状態で信義の問題として退くわけにもいかず、虎に乗って勢いよく走り出したようなもので、もう降りることができましようか）

用 例：「そんな事は、なんでもない。」才之助は、すでに騎虎の勢いである<太宰治・清貧譚>

語 釈：「騎」は乗る意。

一 言：今年の干支は「寅」なので、虎の漢字が付くものから選びました。辞典を調べるまでは、単なる行動の勢いを形容した熟語と思っていましたが、いったん始めたらやり続けるほかない、途中でやめにくいことの意味を改めて知りました。さしずめ、この「折に触れ 四字熟語」も始めてかなりの年月にはなりましたが、これから先も騎虎之勢で行くしかないと思った次第です。

参照文献：岩波書店「四字熟語辞典」